

水無川 1 号砂防ダムの竣工式について

● 荒 巻 重 則 ●

1. は じ め に

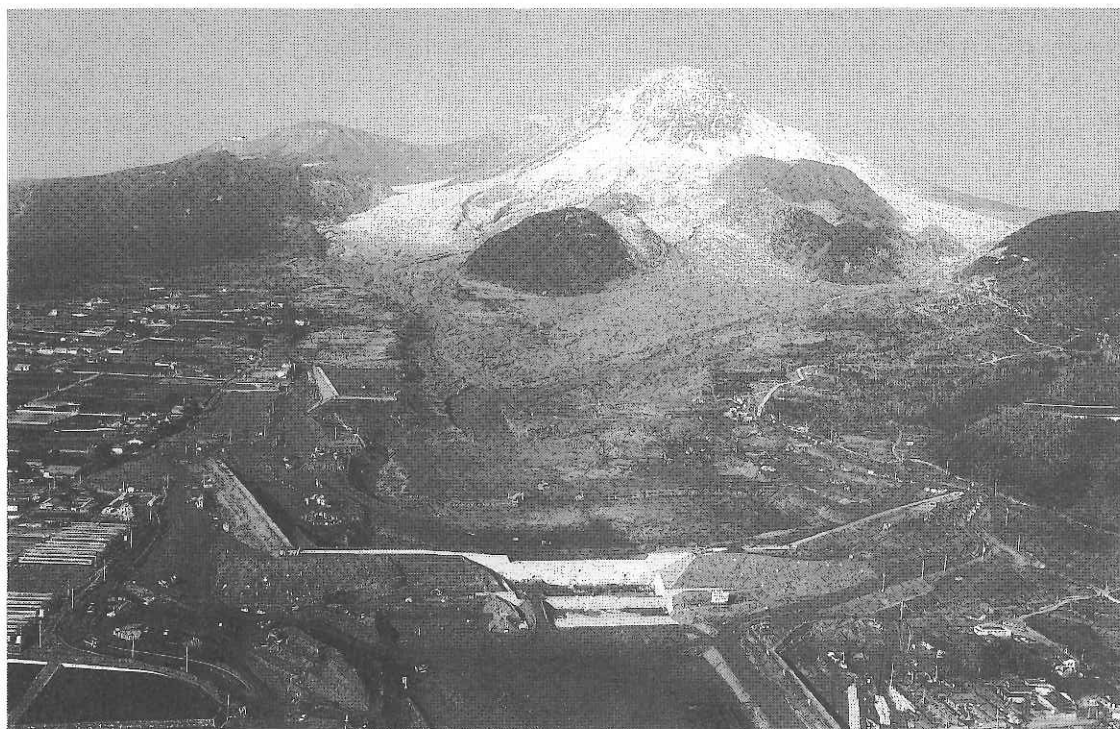
平成 2 年 11 月 17 日、198 年ぶりに雲仙・普賢岳が噴火活動を始め、その後相次いだ火砕流、土石流で水無川、中尾川流域には甚大な被害が発生しました。一刻も早い地域復興を図るため、平成 5 年度より建設省は直轄火山砂防事業に着手していますが、水無川上流には膨大な火山噴出物が堆積し、下流域は現在でも土石流等の危険にさらされ

ています。このような状況のもと、平成 7 年 10 月より、雲仙復興工事事務所によって建設が進められてきた復興の基幹となる水無川 1 号砂防ダムが平成 10 年 2 月 19 日に竣工しましたので、ここに竣工記念式典の概要について報告いたします。

2. 水無川 1 号砂防ダムの概要

(1) 位置

長崎県島原市白谷町・南高来郡深江町大野



* Sigenori Aramaki 建設省雲仙復興工事事務所砂防課長

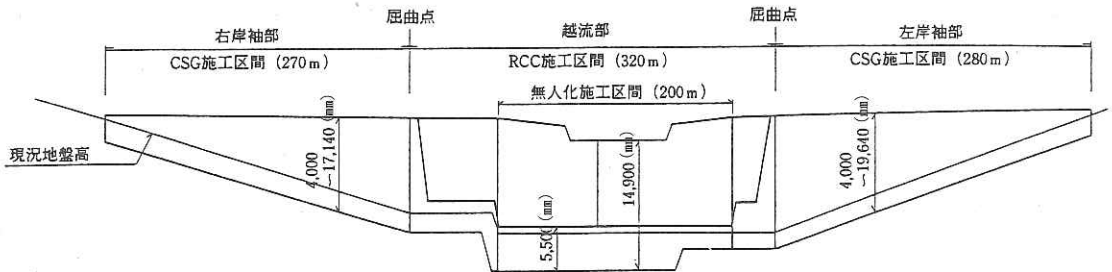


図-1 正面図

木場名

(2) 施工概要

水無川1号砂防ダムは、雲仙・普賢岳の土石流対策として、水無川上流域に計画されている40基のダム群の最下流部に位置する基幹ダムです。全国にはこれまで設置された砂防ダムが5万基以上ありますが、水無川1号砂防ダムは日本一長い砂防ダムとなります。

施工方法は、現場条件等により、①土石流に対する安全性、②早期効果の発現、③作業員の安全確保、④火山堆積物の有効利用を総合検討した結果、越流部は無人工化施工によるRCC工法、袖部はCSG工法を採用しました。この工法を採用したことにより作業の省人化、建設発生土の有効利用、コスト縮減が図られたうえに、2年半という短期間で完成することができました。

(3) 諸元

ダム高	14.9m
堤長	870m - 越流部 (RCC) 320m - 右岸袖部 (CSG) 270m - 左岸袖部 (CSG) 280m
堤体積	235,500m ³ - 越流部 (RCC) 70,500m³ - 右岸袖部 (CSG) 51,000m³ - 左岸袖部 (CSG) 114,000m³
計貯砂画量	約100万m ³

3. 竣工式

竣工式は、平成10年2月19日午前9時30分より現場近くの安中公民館で関係者多数が出席して開催されました。式典は、雲仙復興工事事務所長の式辞に始まり田畑砂防部長、菊地九州地建局長の挨拶が述べられたあと、長崎県知事（代理副知事）による祝辞をいただきました。特に田畑砂防部長の挨拶では、平成5年4月に雲仙復興工事事務所が開所した当時の事務所長であった松井火山・土石流対策官が紹介され、紹介を受けた松井対策官は、災害状況・苦労話等を述べられました。出席者一同は当時を振り返り、改めて基幹ダムの完成を祝うとともに、今後の砂防事業の必要性を再認識しました。



4. 竣工セレモニー

セレモニー開始に先だち、平成3年6月の大火
砕流により、被災された43名のご冥福を祈ると
ともに、工事完成の報告を兼ね1分間の黙祷を行
いました。その後ダム銘板の除幕式が行われました。
この銘板は、地元小学生の揮毫によるもので、力
あふれる銘板が関係者に披露されました。引き続
き記念植樹が行われ、近い将来、緑に復元される
ことを思いつつ全ての式典が無事終了しました。

5. お わ り に

水無川1号砂防ダムが無事に竣工を迎えること
ができたのは、地権者や地域住民並びに関係
機関の方々のご指導、ご協力のたまものであり、
ここに謝意を表すものです。この水無川1号砂防
ダムと同時に一部開通された島原深江道路が地域
復興の礎となることを祈念するものであります。

